

# 岡山県感染症週報 2015年 第16週 (4月13日～4月19日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

## ◆2015年 第16週 (4/13～4/19) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第15週 2類感染症 結核 8名 (40代 男 1名、50代 男 1名、60代 男 2名、70代 男 2名・女 1名、80代 男 1名)

5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (40代 男)

第16週 2類感染症 結核 4名 (60代 男 1名、70代 男 2名、90代 男 1名)

5類感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1名 (40代 男)

### ■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で320名 (定点あたり2.83→3.81人) の報告があり、前週より増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で343名 (定点あたり5.83→6.35人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

### 【第17週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が11施設でありました。(4月20日～22日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で320名 (定点あたり2.83→3.81人) の報告があり、前週より増加しました。岡山県は、「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。地域別では、倉敷市 (6.44人)、備中地域 (6.33人)、真庭地域 (5.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、5施設でありました。インフルエンザによる入院患者は、3名の報告がありました。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で343名 (定点あたり5.83→6.35人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域 (9.00人)、倉敷市 (8.64人)、美作地域 (7.50人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： : 2倍以上の減少 : 1.1～2倍未満の減少 : 1.1未満の増減

: 1.1～2倍未満の増加 : 2倍以上の増加

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

◆◆ダニが媒介する感染症に注意しましょう！◆◆  
これからの季節、レジャーや山菜採りなど、野外で活動する機会が増えます。



野外にいる吸血性のダニとして、大型のマダニや、小型のツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の他に、日本紅斑熱やつづが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。  
春から秋（3～11月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

- ◎草むらなどに入るときには、腕・足・首など肌の露出を少なくしましょう。
  - ・首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用。
  - ・シャツの袖口は軍手や手袋の中に。
  - ・ズボンの裾は、靴下に被せるか、長靴の中に。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤を噴霧しましょう。  
（子供に使用の際は、虫除け剤に添付されている注意書きをよく読んでください）
- ◎草の上に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎脱いだ衣服は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。  
入浴やシャワーの時には、マダニが肌に付いていないかチェックしてください。
- ◎ペットにもダニが付かないように、ダニ避け剤などで予防しましょう。

～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

【マダニが付いていたとき】

- ◎マダニが皮膚に付いていることに気がついた場合、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。  
その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。
- ◎自分でマダニを取り除いた場合、数日～2週間程度経過した後、発熱・発疹等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。  
その時、マダニが付いていたことを伝えてください。

【野外活動後に、症状がでたとき】

- ◎ 野外活動して、数日～2週間程度経過した後、発熱・発疹等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その時、野山や草むら、河川敷などに立ち入る機会があったことを伝えてください

[マダニに注意! ～野外で活動する方へ～ \(岡山県チラシ\)](#)

[マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)

【お知らせ】

- ゴールデンウィークに海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページからご覧になれます。

[ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について \(厚生労働省\)](#)

[ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆さまへ! \(厚生労働省検疫所\)](#)

## インフルエンザ週報 2015年 第16週 (4月13日～4月19日)

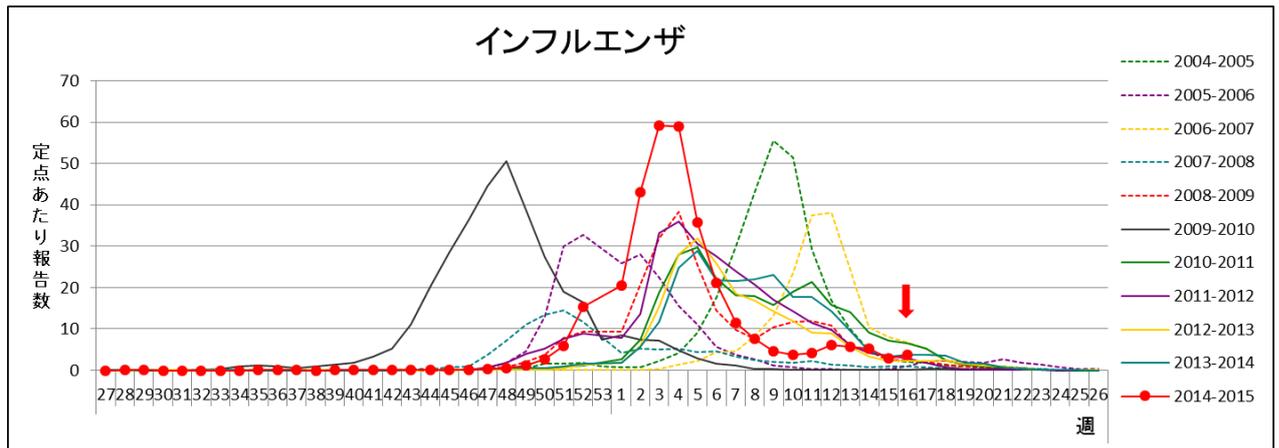
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 320 名（定点あたり 2.83 → 3.81 人）の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 5 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 3 名の報告がありました。

## 【第17週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 11 施設でありました（4月20日～22日）。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 320 名（定点あたり 2.83 → 3.81 人）の報告があり、前週より増加しました（84 定点医療機関報告）。

地域別では、倉敷市（6.44 人）、備中地域（6.33 人）、真庭地域（5.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。備北地域を除く、全ての地域で増加がみられました。

流行のピークは過ぎ、患者は減少してきているものの、小学校での臨時休業も報告されており、依然として患者の発生は続いています。流行は、まだしばらく続くと思われ、岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めてください。

### ◆インフルエンザは依然として流行しています。

#### 【 予 防 】

- \* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- \* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- \* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- \* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

#### 【 かかったかな？という時には 】

- \* 早めに医療機関を受診しましょう。
- \* 周囲の人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- \* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

# 1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	320	➡	備 中	患者数	76	➡
	定点あたり	3.81			定点あたり	6.33	
岡山市	患者数	43	➡	備 北	患者数	23	➡
	定点あたり	1.95			定点あたり	3.83	
倉敷市	患者数	103	➡	真 庭	患者数	15	➡
	定点あたり	6.44			定点あたり	5.00	
備 前	患者数	50	➡	美 作	患者数	10	➡
	定点あたり	3.33			定点あたり	1.00	

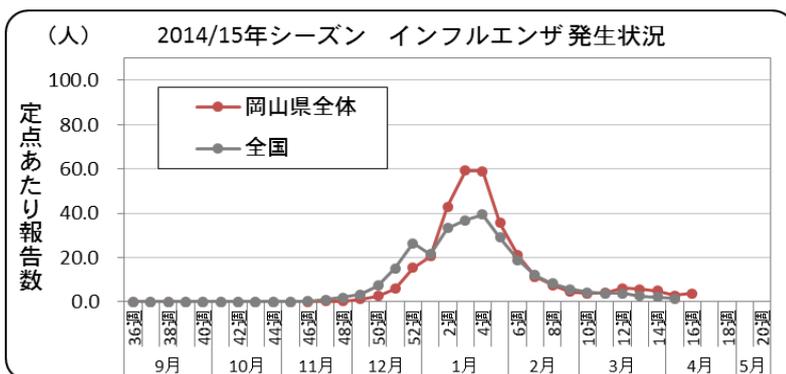
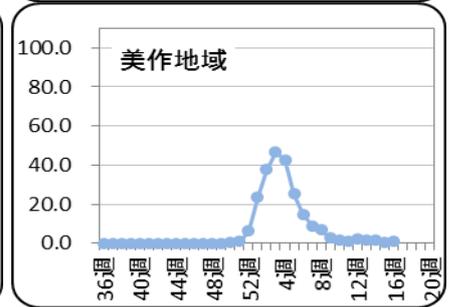
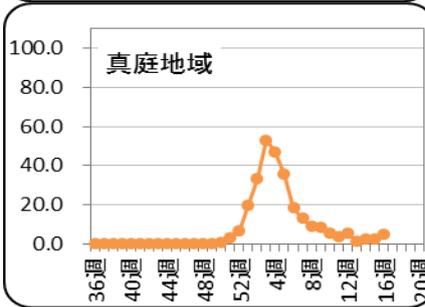
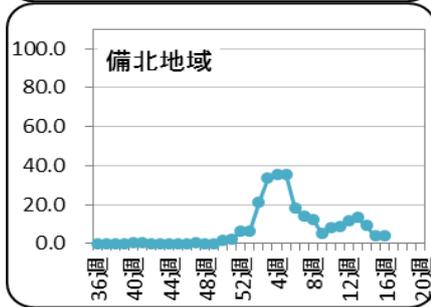
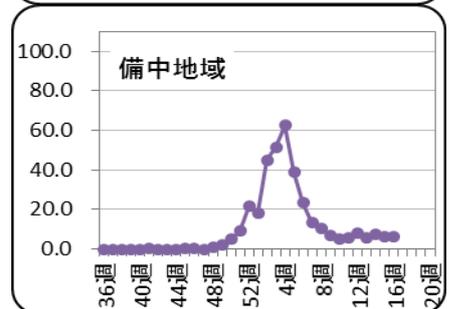
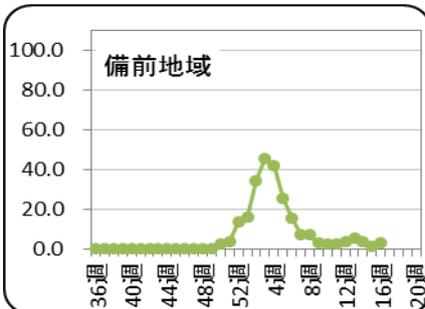
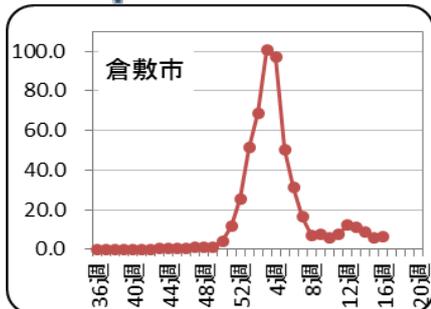
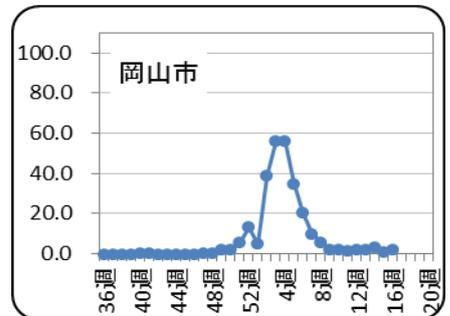
【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ➡  
 1.1～2倍未満の増加 ➡ 2倍以上の増加 ↑

## インフルエンザ感染症マップ



### ＜インフルエンザ発生レベル 基準＞

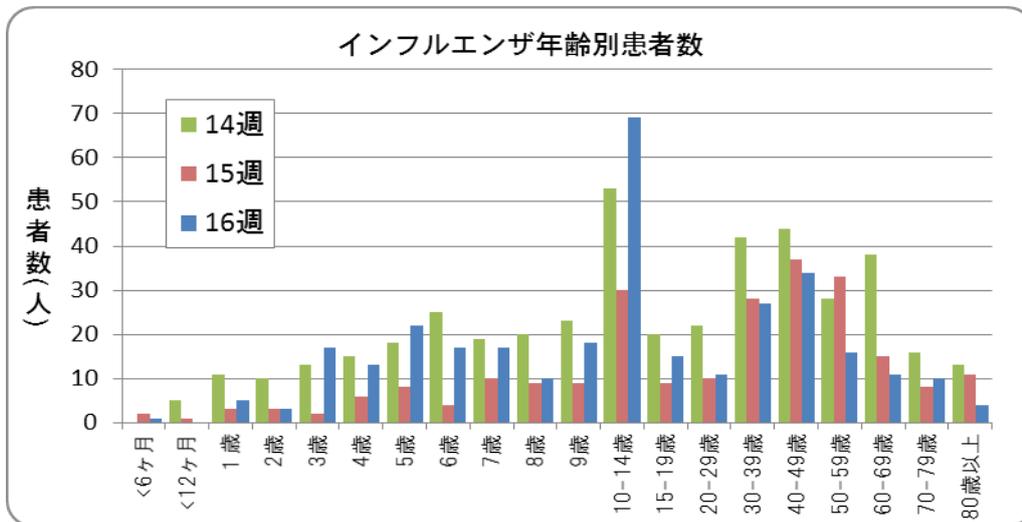
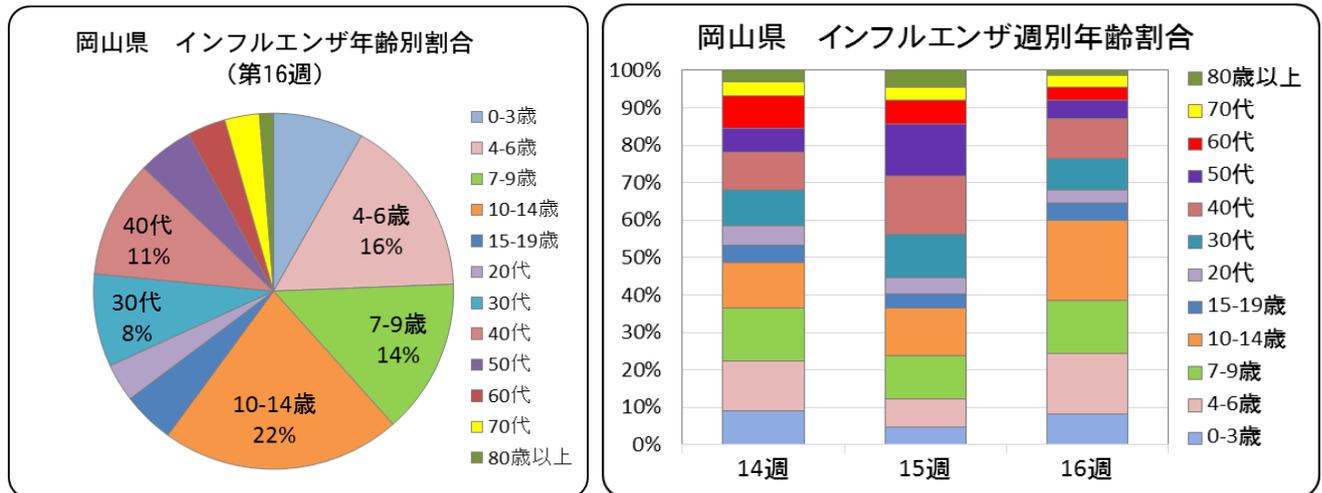
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0< 10未満		0



全国の第15週（4/6～4/12）集計によると、全国の定点あたり報告数は1.57人であり、11週連続で減少しました。都道府県別では、沖縄県（4.86人）、山形県（3.71人）、福井県（3.56人）の順で定点あたり報告数が増えており、43都道府県で前週より減少がみられました。

## 2. 年齢別発生状況

第16週の年齢別割合は、高い順に10-14歳 22%、4-6歳 16%、7-9歳 14%となりました。前週と比較して、中学生以下の年齢層の割合が増加しています。



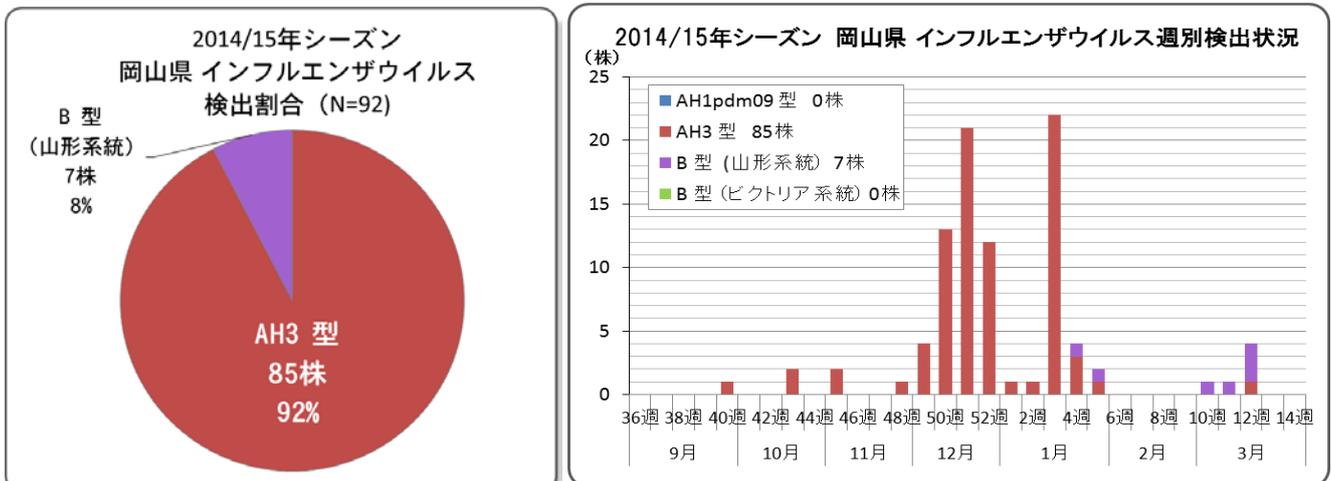
## 3. インフルエンザウイルス検出状況

第16週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が85株(92%)、B型が7株(8%)となっています。

[岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、岡山県と同様、AH3型の検出割合が最も高く90%、次いでB型が9%、AH1pdm09型が1%の順となっています。しかし、最近5週間(第11週~15週)の検出状況を見ると、B型の検出割合が最も高くなっています。(2015年4月23日現在)

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

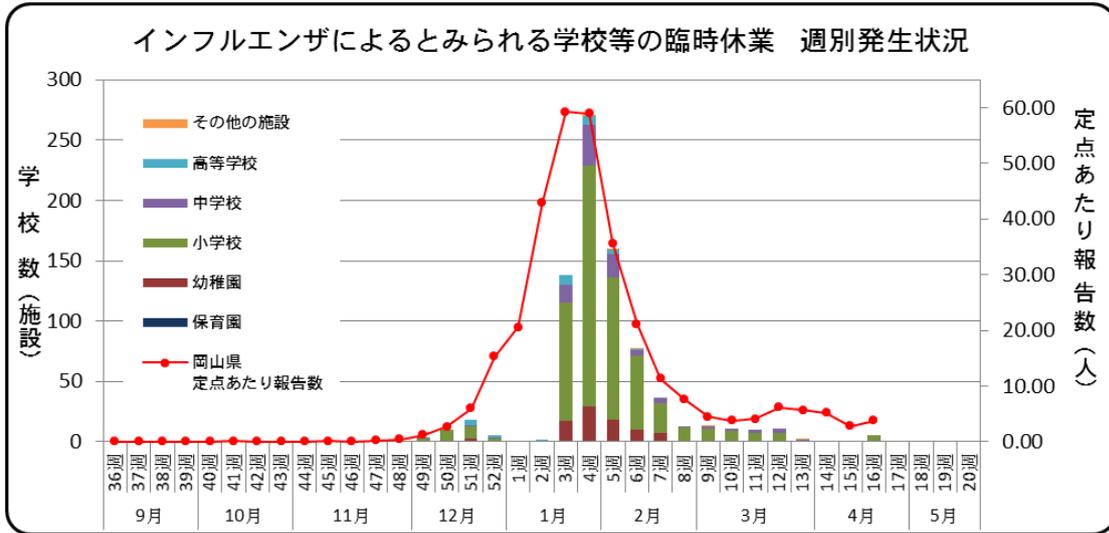


#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が5施設でありました。

【第16週 臨時休業施設数】

▽玉野市 2 ▽岡山市 1 ▽倉敷市 1 ▽真庭市 1



#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>81</b>	<b>12489</b>	<b>72</b>	<b>9745</b>	<b>5</b>	<b>792</b>	<b>0</b>	<b>17</b>	<b>4</b>	<b>202</b>	<b>1</b>	<b>573</b>	<b>H26.10.21</b>
岡山市	17	5054	12	3790	1	299	0	2	1	42	0	255	H26.12.1
倉敷市	31	3023	27	2471	1	166	0	3	1	26	0	137	H26.10.21
備前地域	17	764	17	644	2	63	—	—	1	24	1	39	H26.12.9
備中地域	0	1638	0	1306	0	131	0	5	0	54	0	72	H26.12.8
備北地域	0	351	0	196	0	14	0	1	0	7	0	6	H27.1.16
真庭地域	16	271	16	218	1	23	0	2	1	13	0	8	H26.12.16
美作地域	0	1388	0	1120	0	96	0	4	0	36	0	56	H27.1.13

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

第16週：5施設

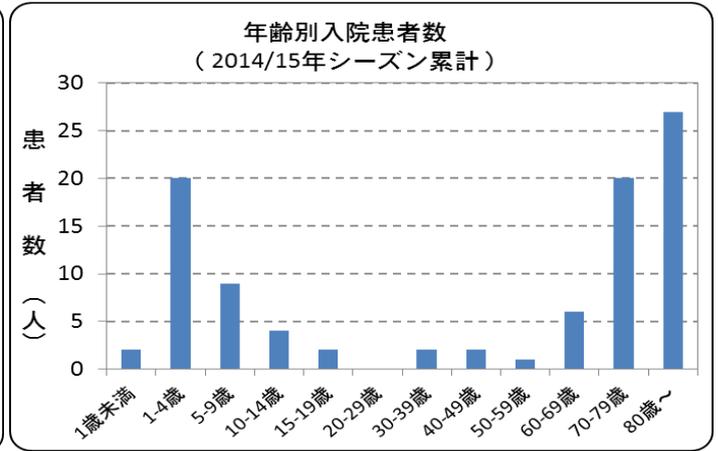
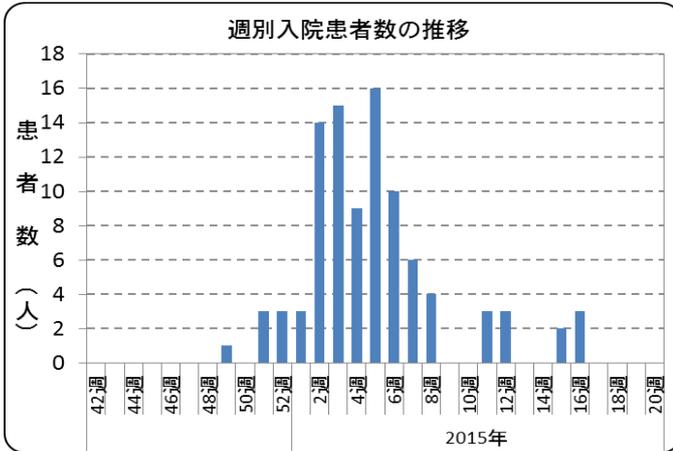
累計：792施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	86	5	581	0	95	0	25	0	5

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3 名（10～14 歳 1 名、30～39 歳 1 名、60～69 歳 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 16 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数				1			1			1			3
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)				1									1
頭部 MRI 検査 (予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず							1			1			2

\* 重複あり

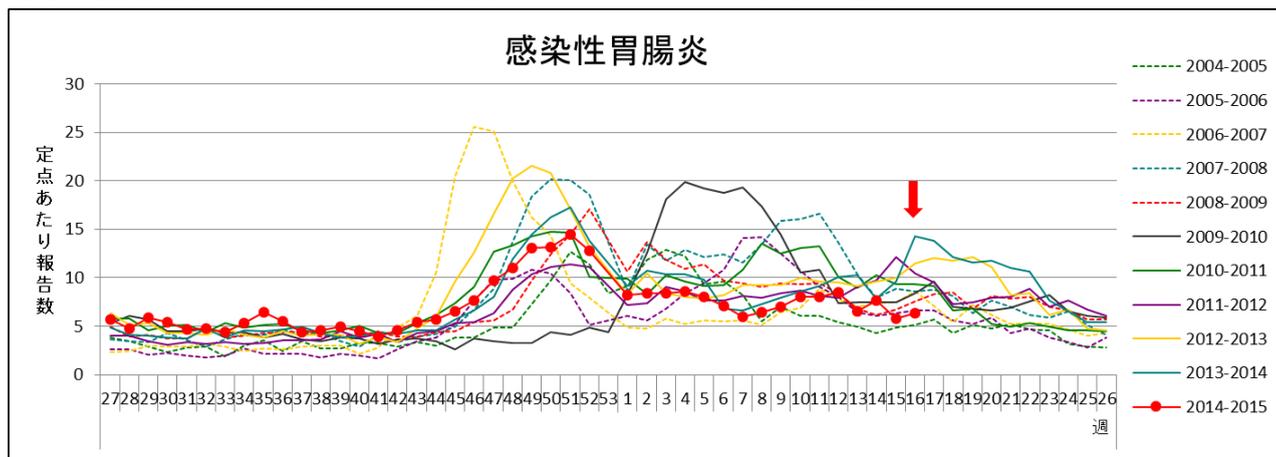
【2014 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2	20	9	4	2		2	2	1	6	20	27	95
ICU 入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)		5		1						2	4	3	15
頭部 MRI 検査 (予定含)		1		1							3		5
脳波検査 (予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず	2	15	9	2	2		2	2	1	4	14	24	77

\* 重複あり

## 感染性胃腸炎週報 2015年 第16週 (4月13日～4月19日)

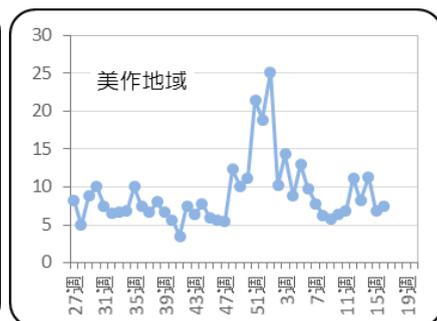
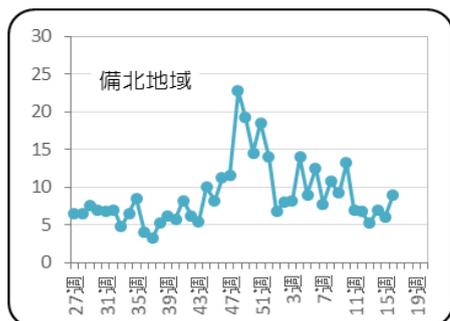
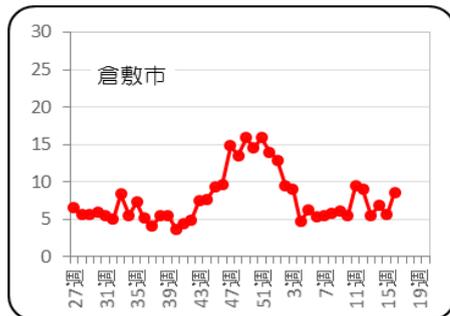
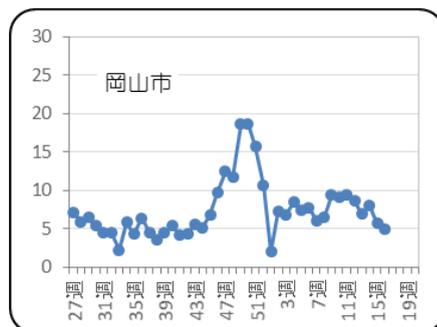
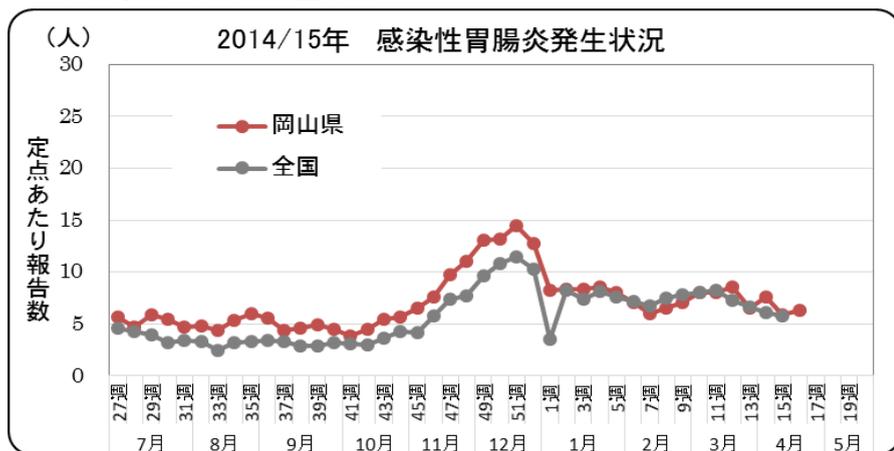
○感染性胃腸炎は、県全体で343名(定点あたり5.83→6.35人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

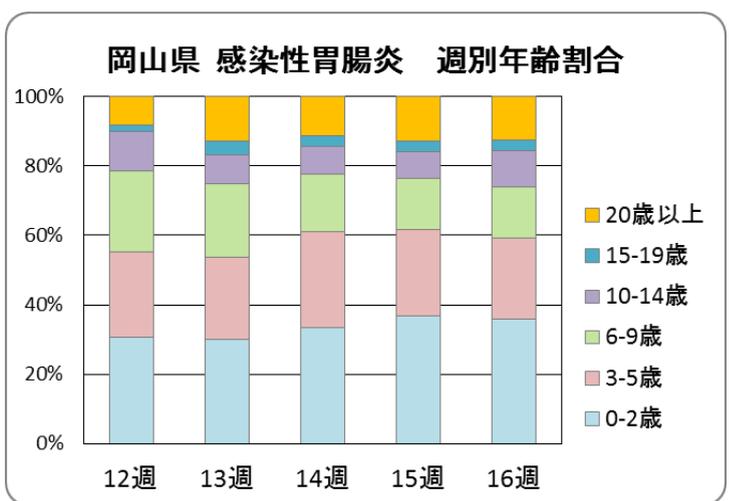
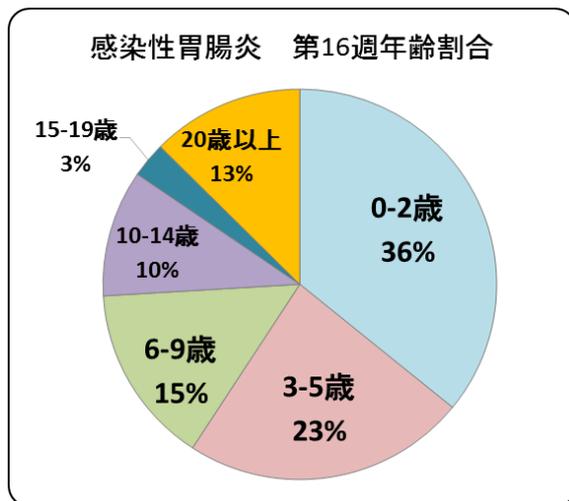


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で343名(定点あたり5.83→6.35人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

### ◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、備北地域（9.00人）、倉敷市（8.64人）、美作地域（7.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢割合では、0-2歳が36%と最も高く、5歳以下の乳幼児が全体の59%を占めています。

例年3~5月には、0-2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[IASR Vol.35 p.63-64: 2014年3月号 ロタウイルス 2010~2013年（国立感染症研究所）](#)

### ◎ウイルスによる感染性胃腸炎に注意しましょう。

- \* 石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- \* 患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。
- \* 塩素系漂白剤などを使った消毒も、併せて行いましょう。
- \* 通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともあります。体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)  
[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 16週

( 2015/04/13~2015/04/19 )

2015年4月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	320	3.81	43	1.95	103	6.44	50	3.33	76	6.33	23	3.83	15	5.00	10	1.00
RSウイルス感染症	5	0.09	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.80	12	0.86	14	1.27	2	0.20	5	0.71	3	0.75	3	1.50	4	0.67
感染性胃腸炎	343	6.35	70	5.00	95	8.64	64	6.40	31	4.43	36	9.00	2	1.00	45	7.50
水痘	27	0.50	4	0.29	5	0.45	8	0.80	4	0.57	2	0.50	1	0.50	3	0.50
手足口病	19	0.35	3	0.21	12	1.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	20	0.37	5	0.36	7	0.64	3	0.30	1	0.14	1	0.25	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	11	0.20	1	0.07	-	-	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	7	1.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 16週

（2015/04/13～2015/04/19）

2015年4月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	320	3.81	43	1.95	103	6.44	50	3.33	76	6.33	23	3.83	15	5.00	10	1.00
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.80	12	0.86	14	1.27	2	0.20	5	0.71	3	0.75	3	1.50	4	0.67
感染性胃腸炎	343	6.35	70	5.00	95	8.64	64	6.40	31	4.43	36	9.00	2	1.00	45	7.50
水痘	27	0.50	4	0.29	5	0.45	8	0.80	4	0.57	2	0.50	1	0.50	3	0.50
手足口病	19	0.35	3	0.21	12	1.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	11	0.20	1	0.07	-	-	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	7	1.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（-：0 or 0.00） （空白：定点なし）

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2015年 第16週 2015/04/13~2015/04/19 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	320	1	-	5	3	17	13	22	17	17	10	18	69	15	11	27	34	16	11	10	4

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	5	1	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	-	-	1	5	7	4	9	5	-	2	4	4	-	2
感染性胃腸炎	343	3	24	60	36	28	32	20	15	7	14	15	36	10	43
水痘	27	-	1	5	3	1	4	1	2	1	2	-	2	2	3
手足口病	19	-	-	9	3	4	1	1	-	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	4	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	20	2	8	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	11	-	-	-	1	-	2	2	3	2	-	-	-	-	1

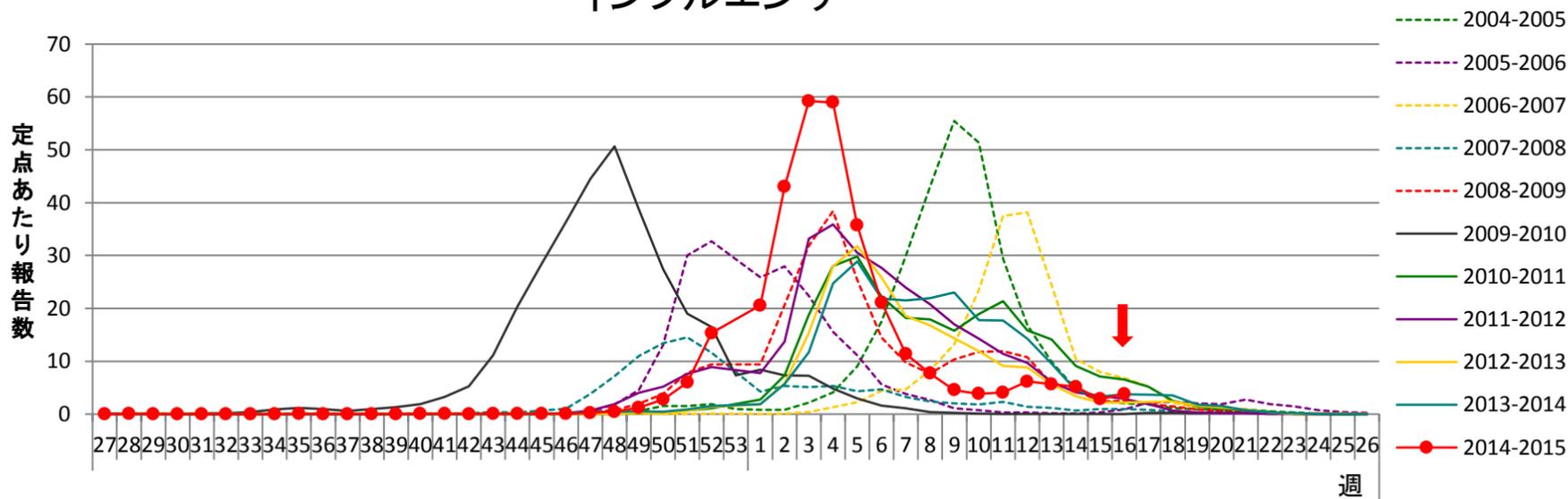
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

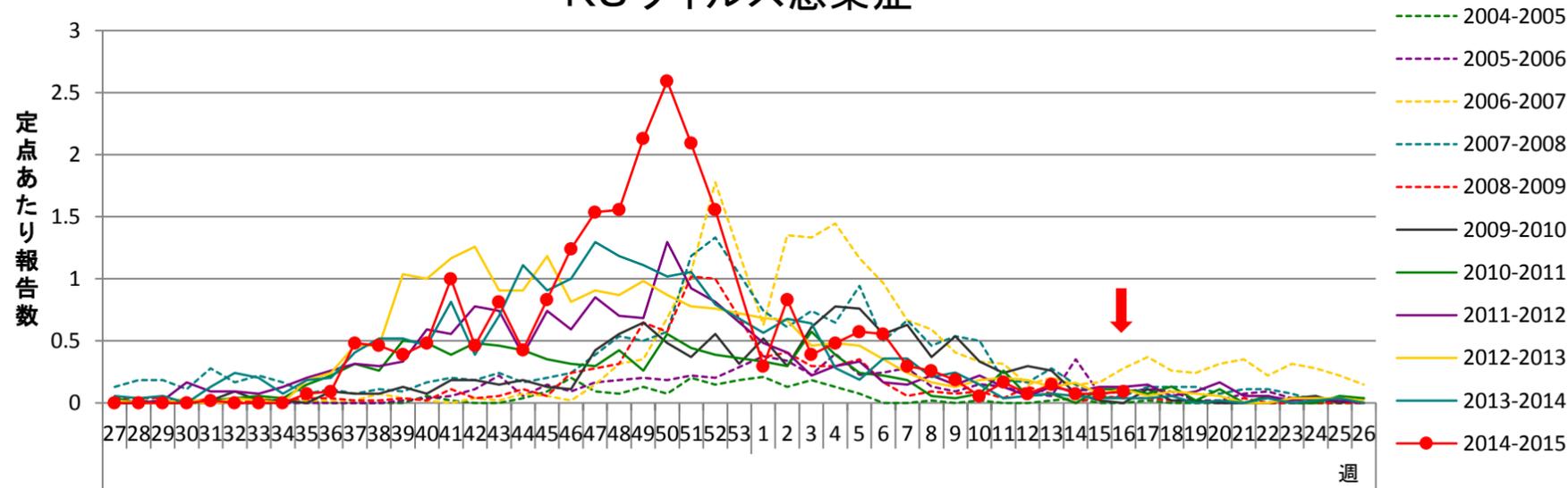
( - : 0 )



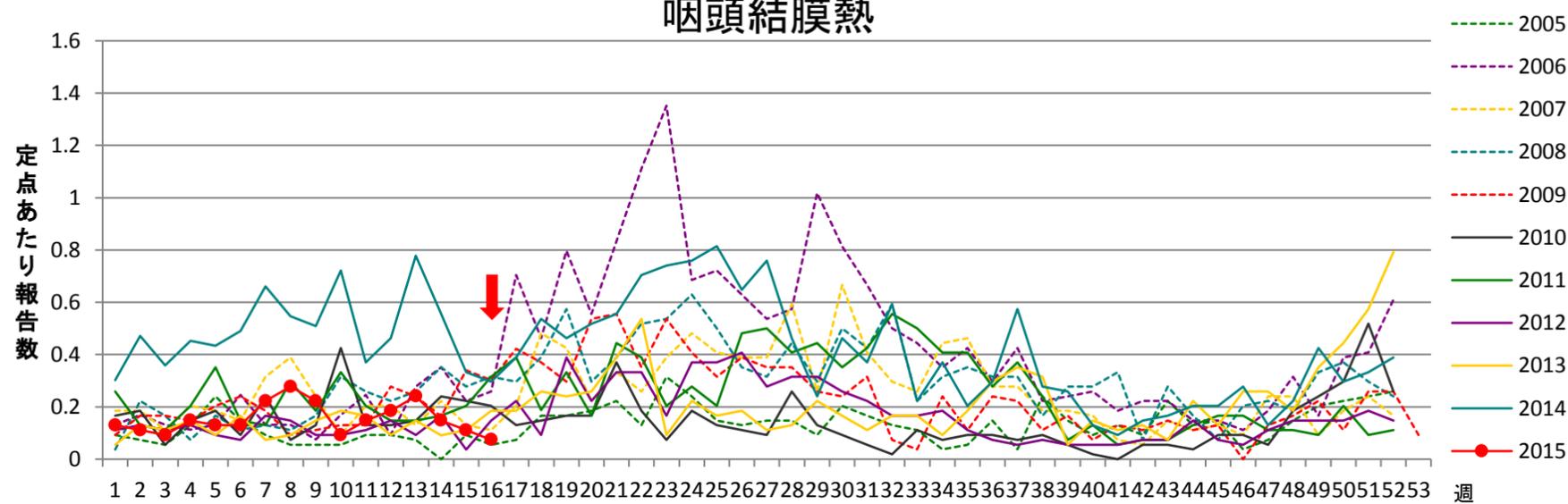
### インフルエンザ



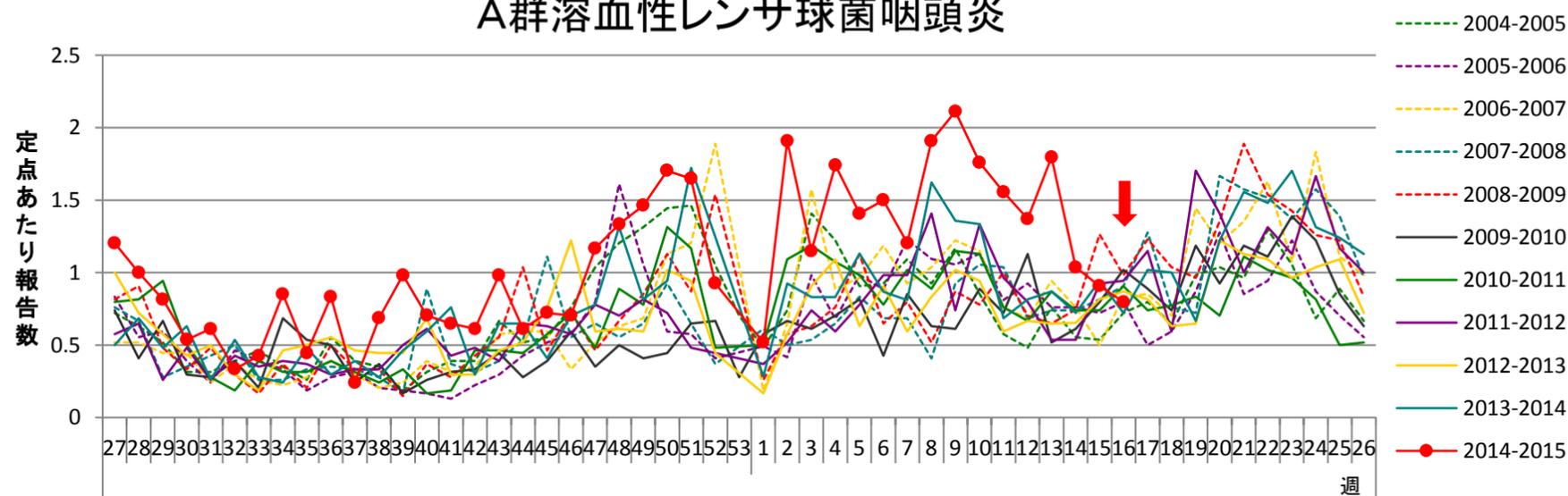
### RSウイルス感染症



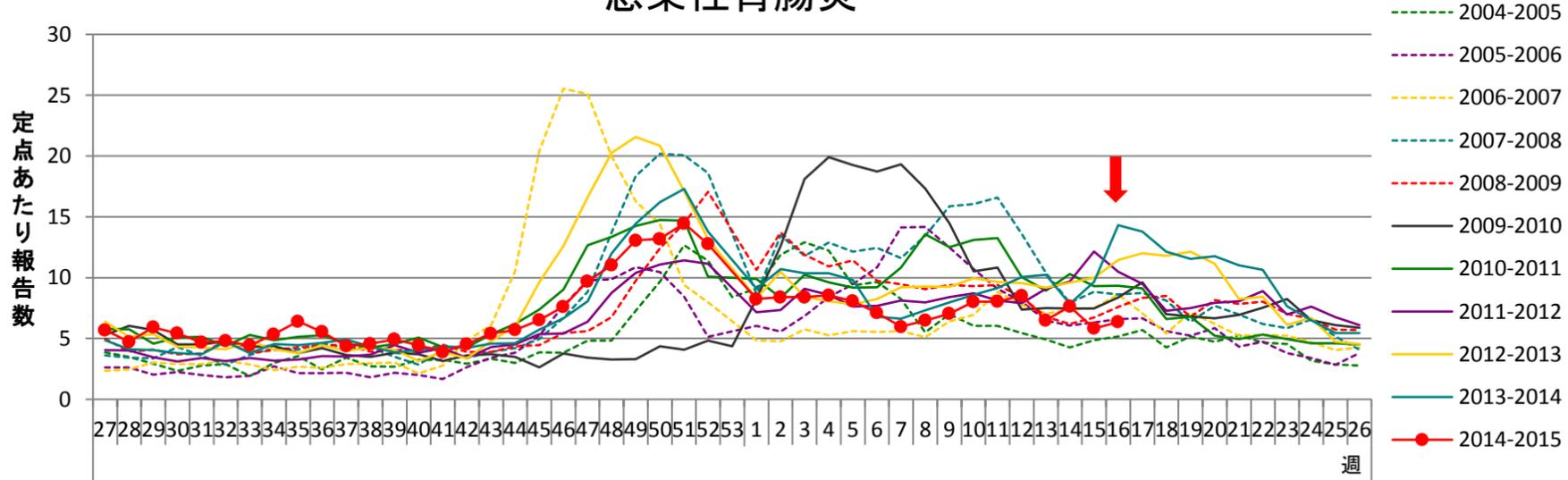
### 咽頭結膜熱



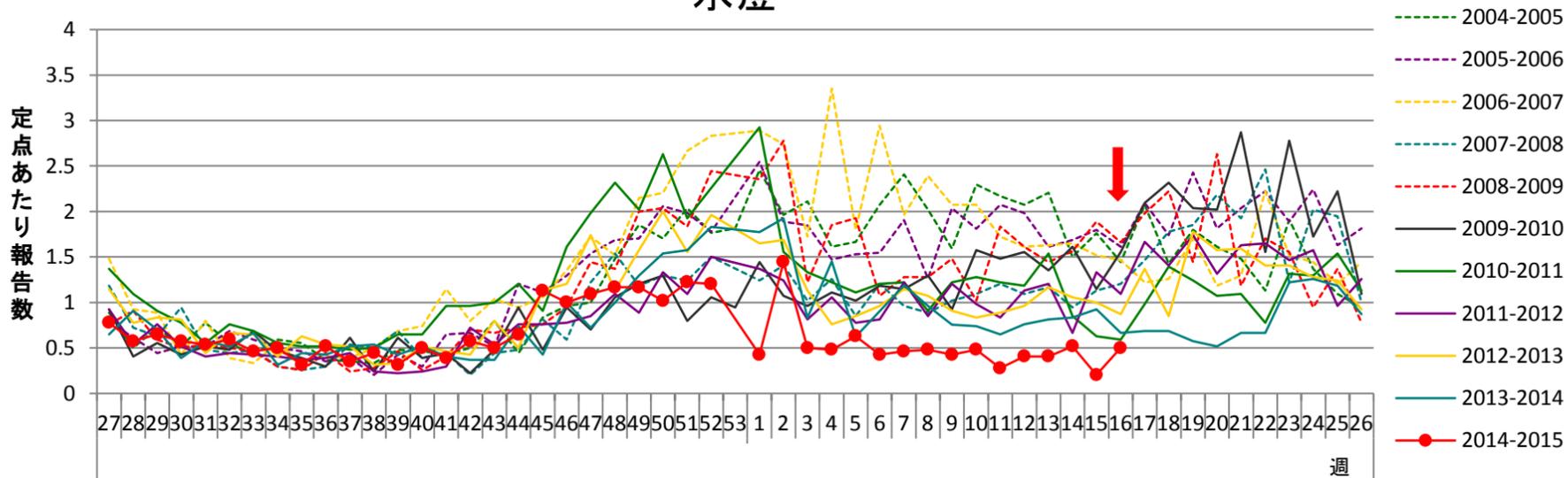
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



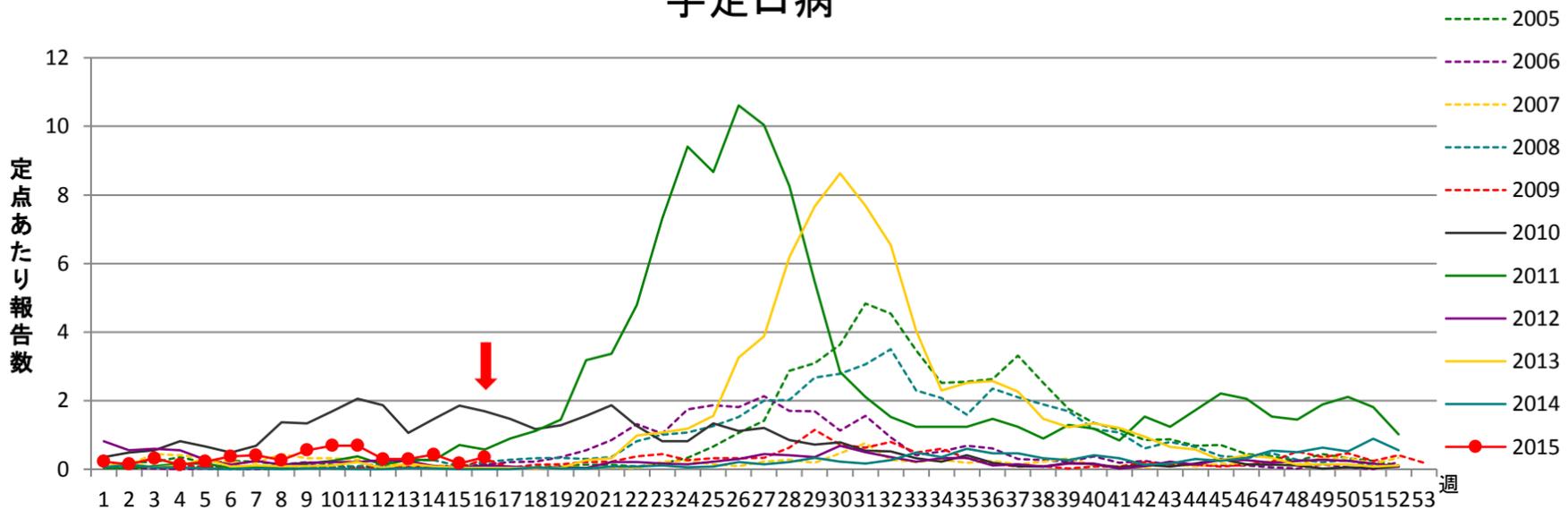
### 感染性胃腸炎



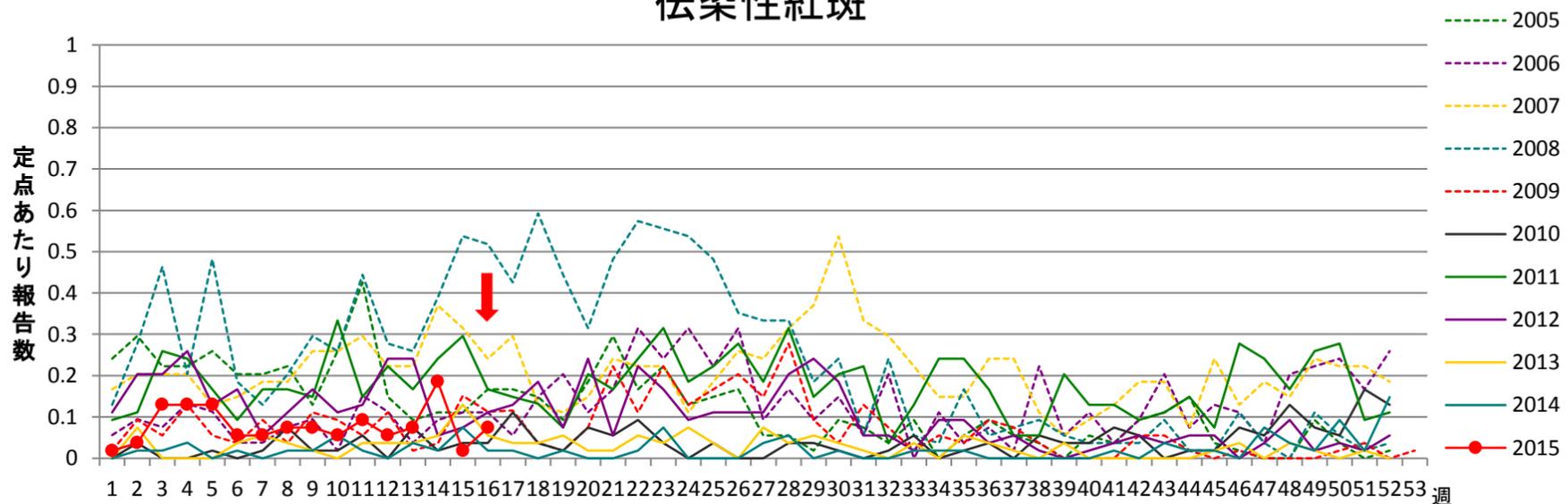
### 水痘



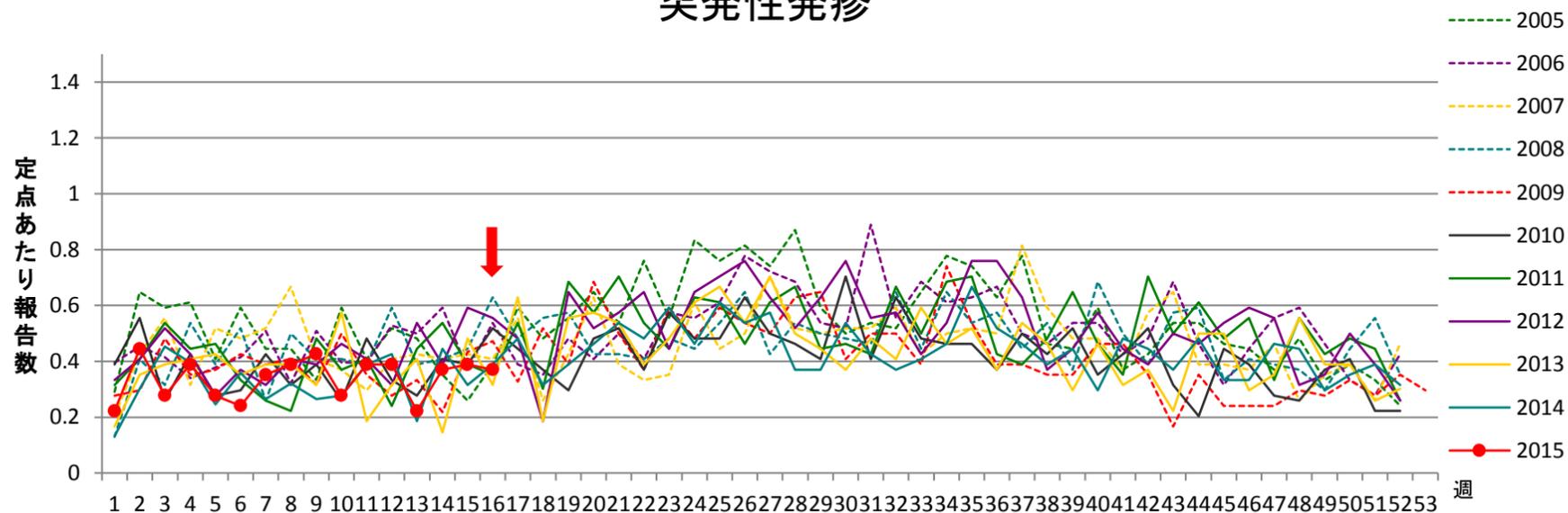
### 手足口病



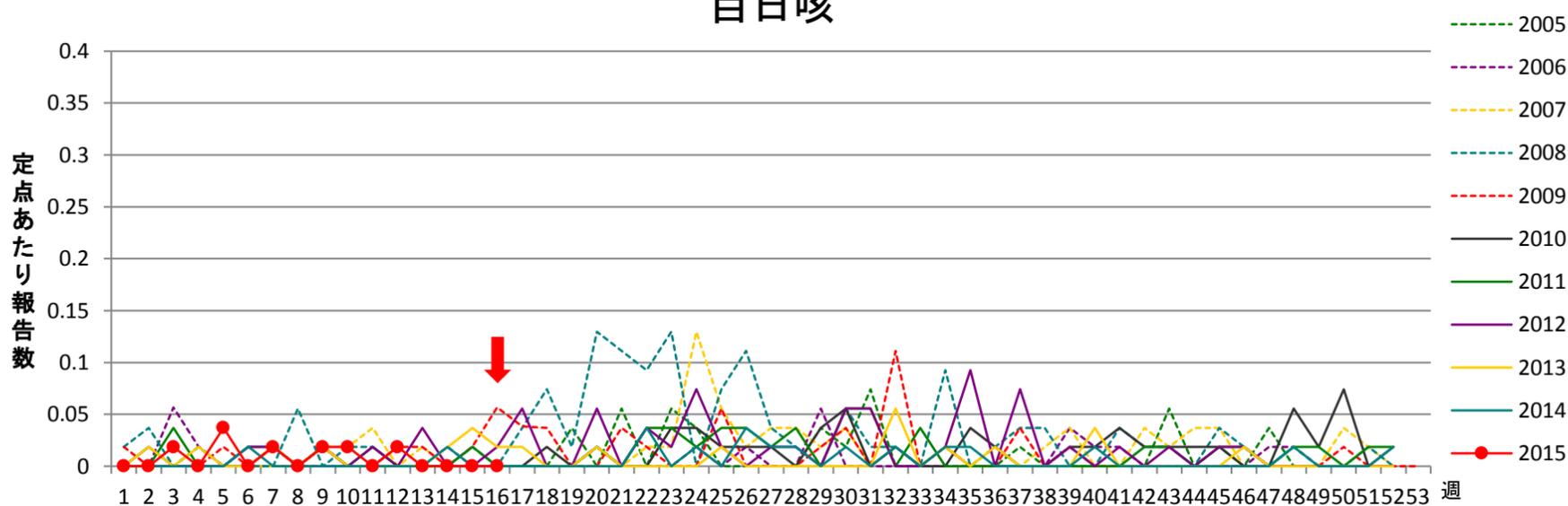
### 伝染性紅斑



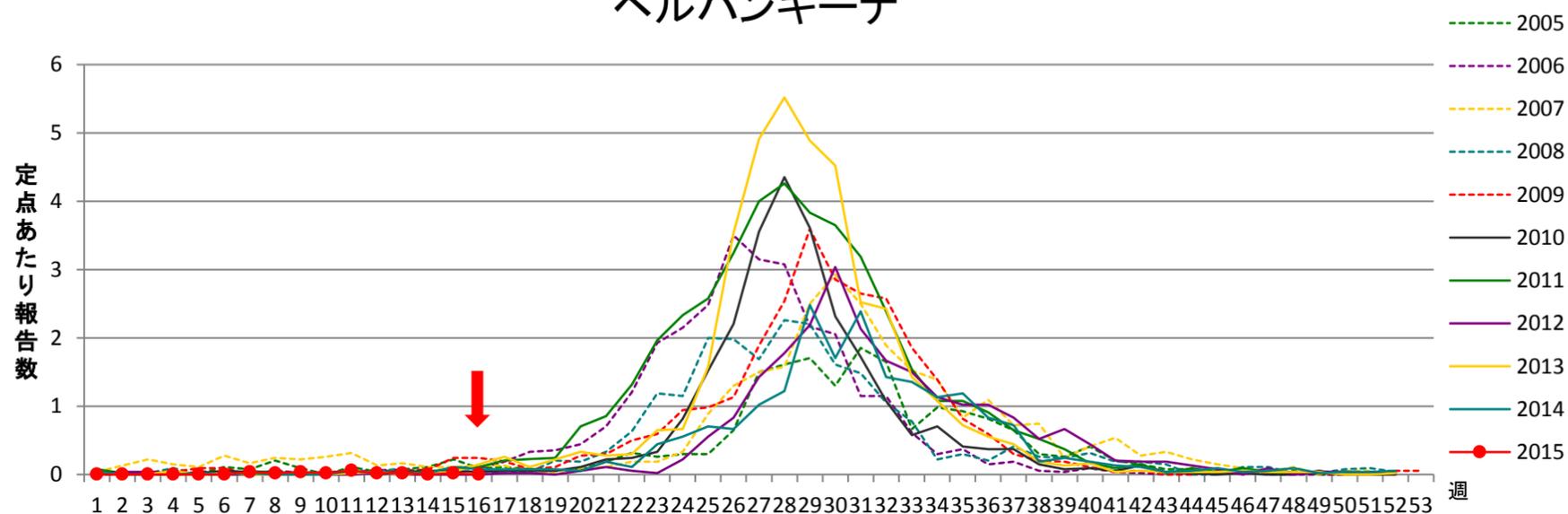
### 突発性発疹



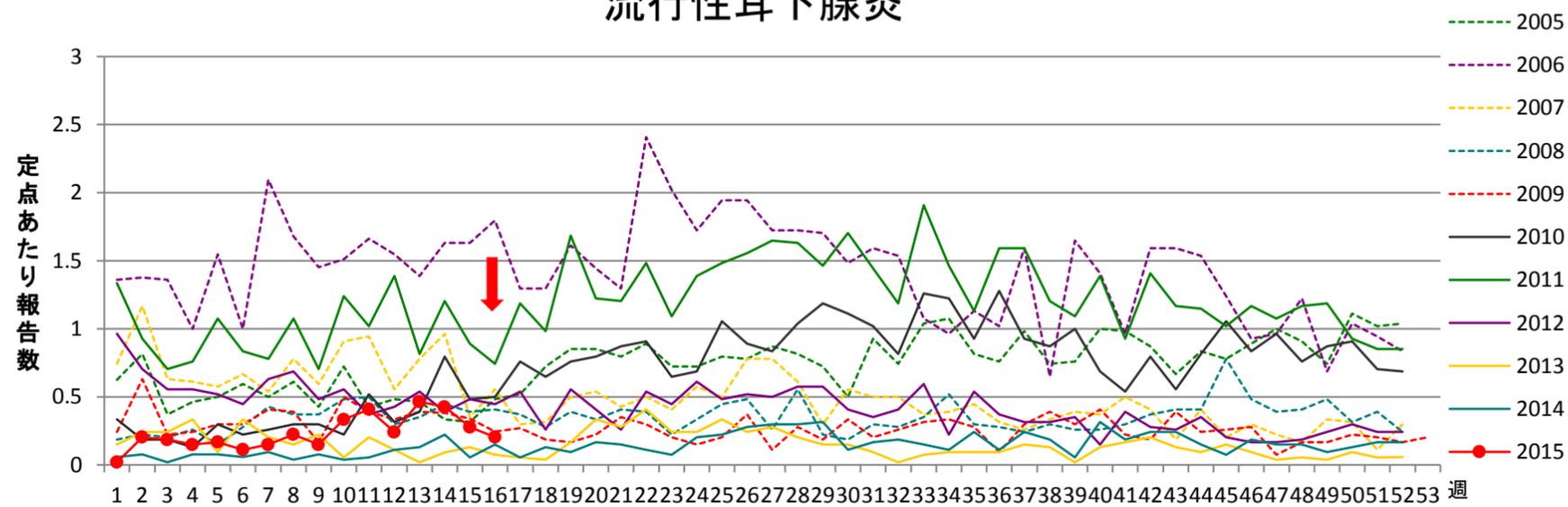
### 百日咳



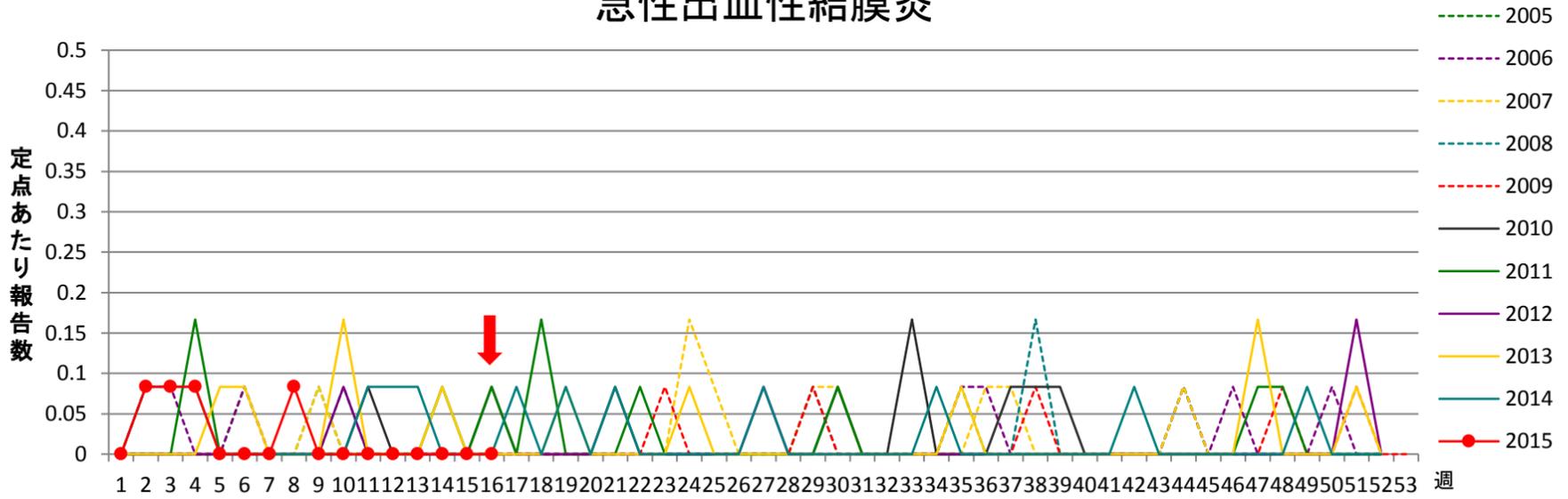
### ヘルパンギーナ



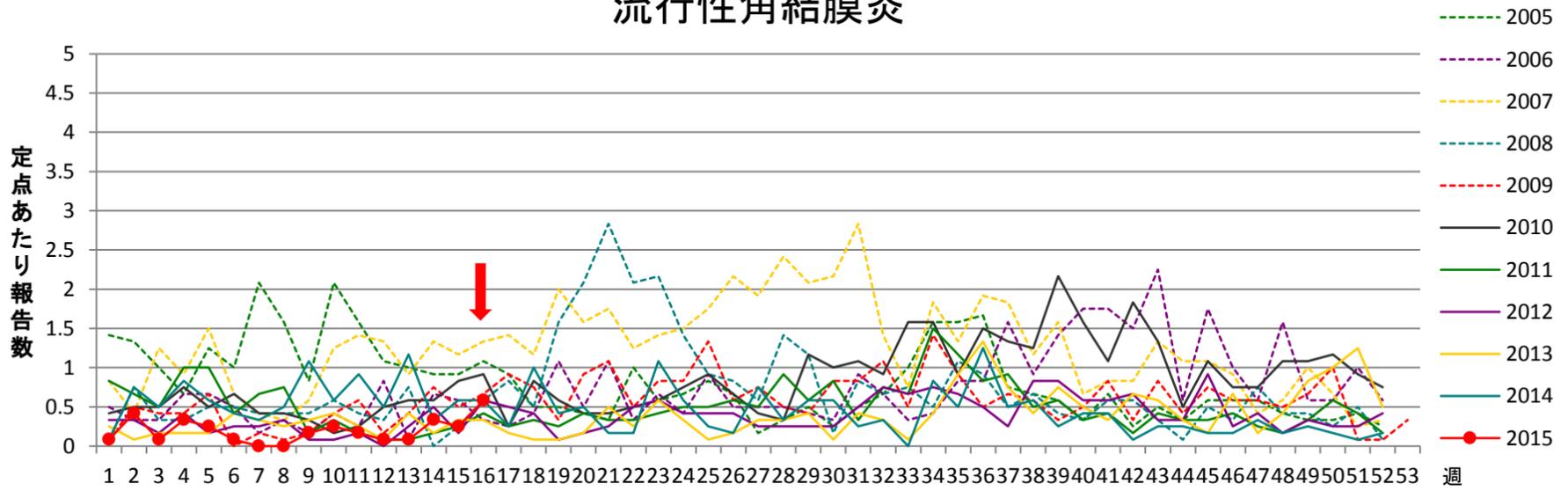
### 流行性耳下腺炎



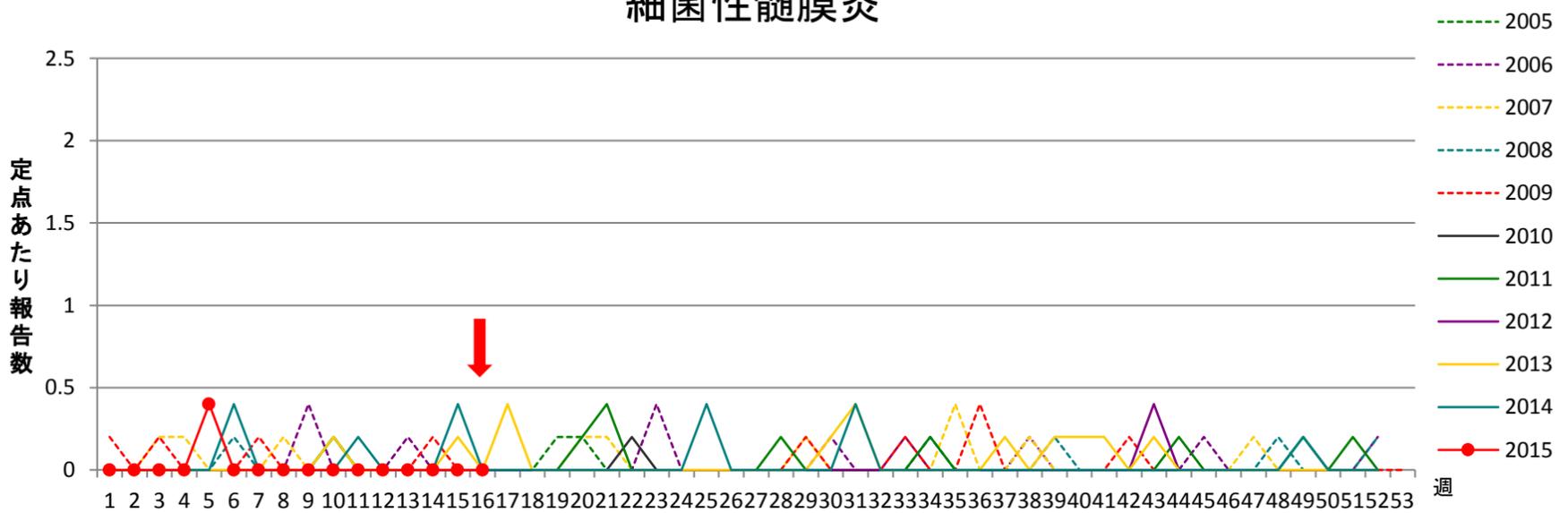
### 急性出血性結膜炎



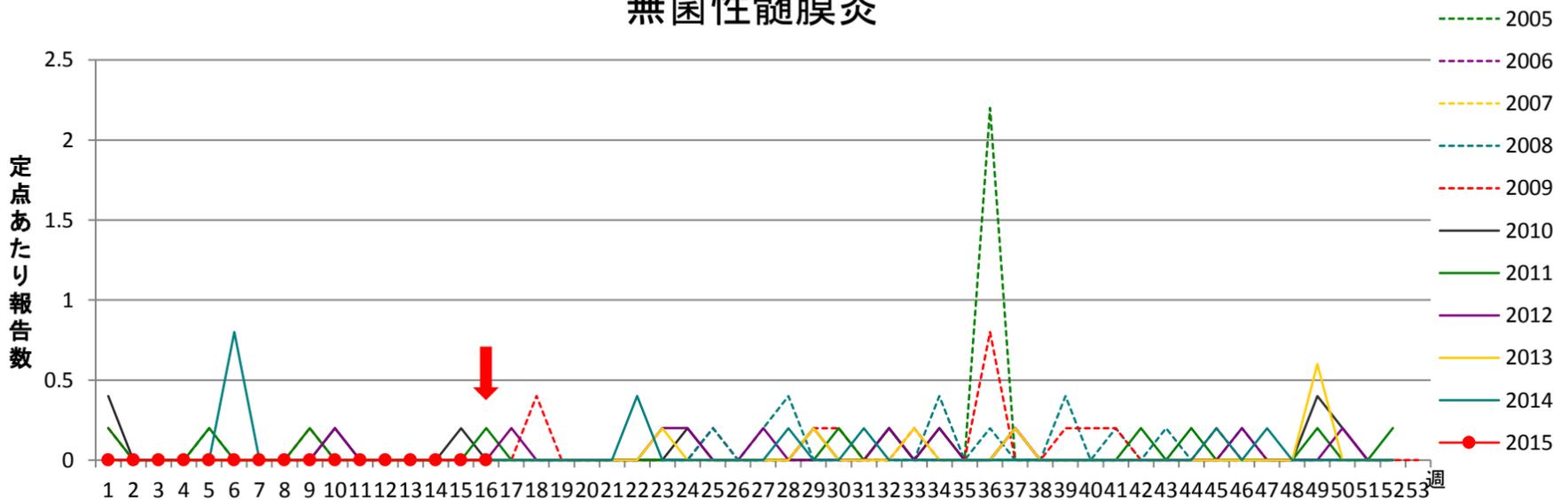
### 流行性角結膜炎



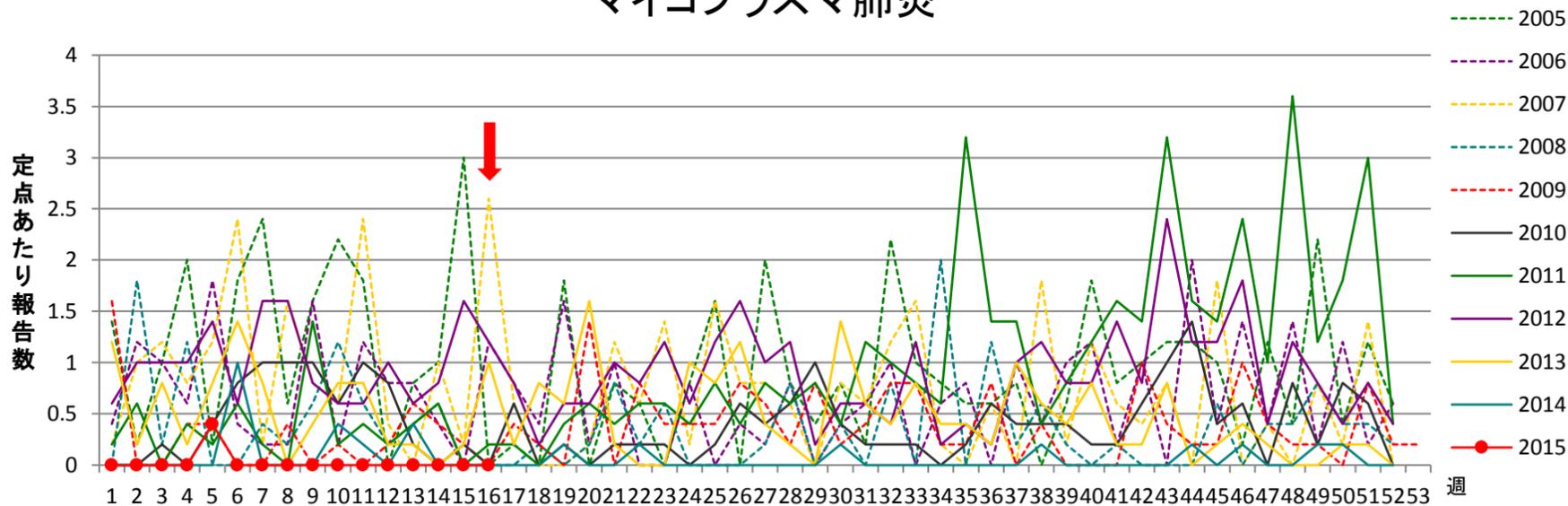
### 細菌性髄膜炎



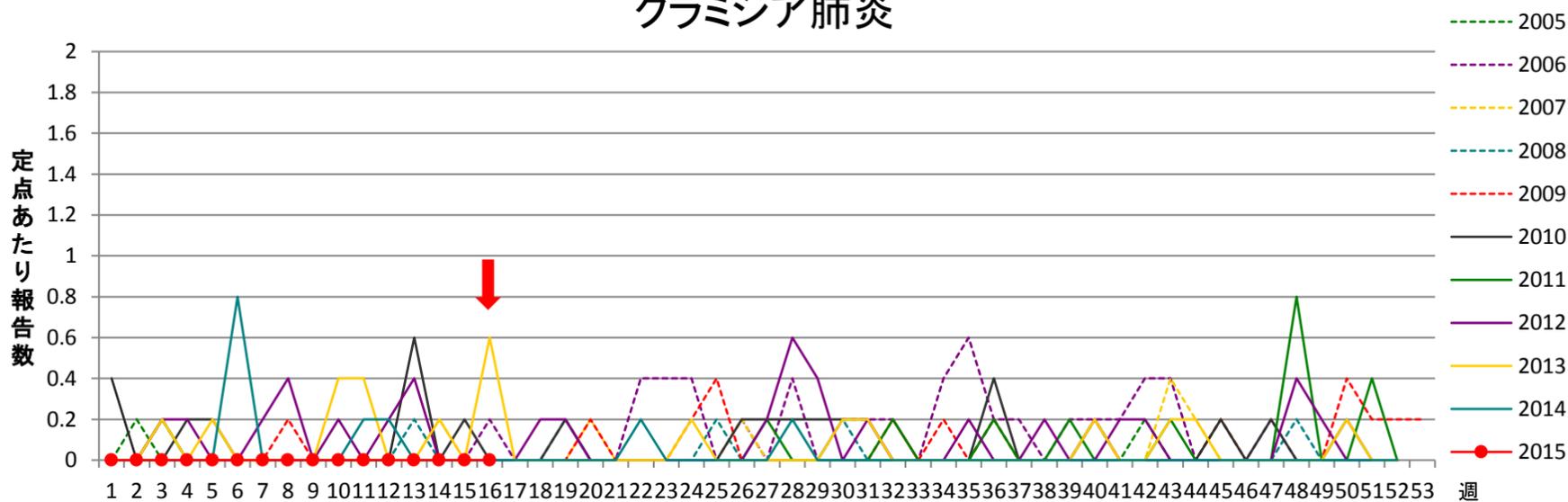
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

